じょうもんじだい こせがわいちいせき

あと ようす あき

小瀬川I遺跡では、縄文時代の集落(ムラ)跡の様子が明らかに かんじょうしゅうらく よ

なりました。、そのムラの形は「環状集落」と呼ばれるものです。

かんじょうしゅうらく

ちゅうおう ひろば

環状集落とはムラの中央に広場をつくり、その周りに同心円状に たてあなじゅうきょ はいち とくしょく しゅうらくあと 多くの竪穴住居を配置した特色ある集落跡のことです。小瀬川Ⅰ遺 ひろば ちゅうしん ほったてばしらたてものあとぐん だいしょうじゅうきょあと かんじょうしゅう 跡では、広場を中心として掘立柱建物跡群・大小住居跡群が環状集 らく けいせい

落を形成していました。

はっくつちょうさ たいりょう いぶつ しゅつど とく たてあなじゅうきょ 発掘調査では大量の遺物が出土しましたが、特に竪穴住居とその しゅうへん じょうもんじだいぜんき やく ねんまえ ちゅうき 周辺から、縄文時代前期(約6,000年前)~中期 (約5,000年前) るかばちがた あさばちがた じょうもんどき どぐう せっき たすう の深鉢形や浅鉢形をはじめとする縄文土器や土偶、石器などが多数 しゅつど 出土しました。

こせがわいちいせき なが きかん わた これらの遺物から、小瀬川 I 遺跡では長い期間に渡って人びとが ムラを作り、生活していたことが分かりました。









小瀬川 I 遺跡 出土遺物 (平成 25·26 年度)